



(右) 昭和52年5月に開催された自治会長会議。設立した64自治会が出席しました。(左) 長年務めた市協委員をねぎらい神尾徹生市長から感謝状を贈呈。

コミュニティの現在地。

—自治会、絶滅危惧種か？ 持続可能か？—

かつて自治会には全ての世帯が加入するものという暗黙の了解の時代がありました。しかし、現在は個人の意識の変化や高齢化などから加入率の減少が進み、また、自治会役員の負担増から、自治会離れが起きているといわれています。そんな時代だからこそ、地域のつながりを重要と考え活動をしている自治会もあります。それらを紹介しながら、地域コミュニティの現在地を見ていきたいと思います。

【取材 企画財政課】



自治会のあゆみ

大竹市の自治会は、いつ誕生したのでしょうか。地域の住民組織は、明治以降いくつかの変遷を経てきた歴史があります。戦時体制の中にあつた部落会・町内会が昭和22年に廃止された後、自治会的なものが自主的に設けられていきましたが、昭和30年度には、市が委嘱する『市協委員制度』ができました。市協委員は、広報紙を含む伝達事項や回覧文書などを配ること、納税の奨励などの業務を行うものでした。しかし、社会情勢や生活環境の変化により、住民の市政参加をめざしたコミュニティ運動を進めていくため



今年6月にアゼリアおおたけで開催された自治会連合会総会。

に、新たな組織づくりが求められていました。現在の自治会は、昭和51年7月に設立した新町3丁目自治会を皮切りに次々と各地区で発足。昭和52年5月25日には、市内64地区の自治会が集う『自治会長会議』が開催され、これまでの『市協委員制度』は発展的に解消されました。その後、7月3日には、市自治会連合会が設立され、今に至っています。

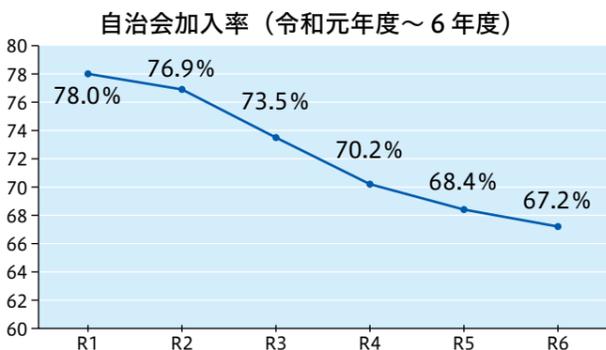
自治会は今

現在、市内にある単位自治会は70（うち2自治会は休会中）、地区自治会連合会が10です。それらが集まって市自治会連合会を構成しています。単位自治会の規模もさまざま、370世帯を抱える白石1丁目自治会もあれば、5世帯で活動している後飯谷自治会もあります。規模も地域性も異なる自治会ですが、高齢化、人口減少、雇用延長に伴う担い手不足など、抱える課題も多いのが全国的な傾向です。また、行政が自治会にお願いしている業務が、会員の高齢化に伴い、次第に負担となってきたり

面は否定できません。それは自治会の存在意義とは何か。今一度原点に立ち戻ってみたいと思います。

時代に合った姿は？

市が作成している『自治会ハンドブック』には、自治会を次のように定義しています。「一定の区域に住む人々が自主的に構成する任意の自治組織です。住民が親睦を深めながら、日常生活の中で様々な地域課題を解決し、住民同士が協力・連携して自分たちのまちを住みやすくしていくことを目的としています」と記されています。ここにあるように、自治会とは任意団体であり、加入も未加入も本人の意思によって決めることができます。しかし、同じ地域に住む人にとっての共通の問題や課題はあらずです。そして、日頃は気づきにくいさまざまなこと、実は自治会がその役割を担っていることもあるでしょう。例えば毎日のごみ出し。クラスなどに荒らされたごみステーションは、誰が片付けているのでしょうか。自治会が管理しているケースが多い



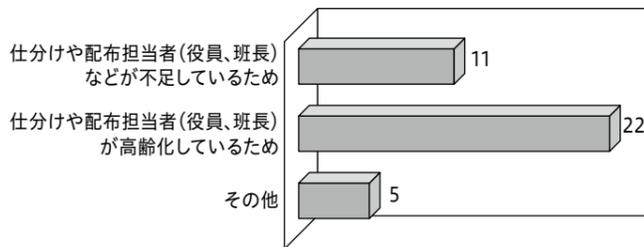
発足から約半世紀、今の時代にあった自治会は、どのようなものか考えていく時期にきているのではないのでしょうか。

9月22日の日曜日、立戸1丁目を流れる水路から刈り取った草や堆積した泥を運び上げる人たちの姿がありました。市内一斉清掃として、自治会に呼びかけて行われた『おおたけクリーンキャンペーン』の一コマです。水路の中に入り、水分を含んでずっしりと重い草や泥をポリ袋と土のう袋に詰め込んでいきます。クリーンキャンペーンとは別に各地区で行われている清掃作業も、自治会の力なくしては行えません。しかし、そこには自治会の担い手不足の影も垣間見えるようです。

（関連記事9ページ）



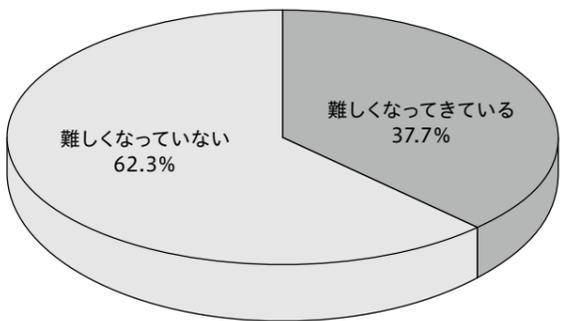
【グラフ2】市広報等の配布が難しくなっている理由



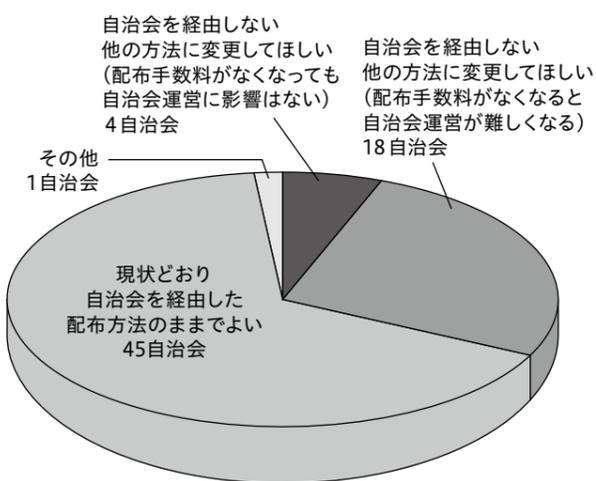
【表2】自治会が市などから依頼を受けている業務等で負担が大きいものについて【負担が大きいと感じている自治会数が多い順】(複数回答可)

内容	自治会数
民生委員・児童委員の選任	36
道路・水路内の草刈り、清掃活動	21
市広報等配布業務	20
環境・健康感謝募金、日本赤十字社活動資金、赤い羽根共同募金の集金	18
公衆衛生推進委員の選任、環境保健協力員の選任	17
市内一斉清掃(クリーンキャンペーン)	16
敬老会事業	14
公園環境美化推進事業	13
地域安全推進委員の選任	13
地区体育委員(スポーツ推進委員)の選任	12
自治会長等代表者情報、自治会組織助成金交付申請および実績報告、広報配布先届出書および請求書の提出	12
自治会連合会会費納入	3
選挙立会人の選任	1
災害時緊急連絡先の提出	0

【グラフ1】市広報等(広報おたけ、各種全戸配布、回覧、ポスター)の配布について



【グラフ3】市広報の配布方法について



※アンケート結果の一部を掲載しています。

どんな支障があるのか?
 今、自治会は過渡期に差しかかっているのかもしれない。加入率の低下が、今のペースで進むと、7、8年後には、5割を切ることも想定されています。未加入世帯が増える要因の一つに、市などから自治会にお願いする業務が負担となり、これまでのように担うことが困難になってきているのではないかと考えられています。
 市は各部署に「自治会が活動停止または解散をした場合、住民にどのような支障が起ることが考えられるか」として「市の業務に、どのような支障が出るか」というアンケートを実施しました。その結果、市の4分の3の部署で影響があることが分かっています。(表1)
 市として考えている支障では、「災害時の対応」「広報紙等の配布」「集会所関係」「ごみ・環境美化」「市への要望」などがあげられていました。
 災害時の地域での「共助」は、各地で頻りに起こる大規模災害時に、日頃の地域のつながりが大きな力となったといわ

自治会が無くなって困るのは、ヤクショか? 住民か?

—自治会アンケートの結果から—

今は当たり前のようにある自治会が無くなってしまったら、どのような影響があるのか。本当に何に支障が出るのか、自治会に替わる何かがあるのか。共働なのか、依存なのか、共に考えなければならぬのではないのでしょうか。

自治会の負担ファーストは?
 さらに市内部への問い合わせとともに、市自治会連合会では、各自治会が抱えている課題や悩みなどについて、5月から6月にかけてアンケートを実施しました。(グラフ・表2)
 「市などからの依頼で負担が大きいもの」という質問で、自治会からの回答で最も多かったのが、「民生委員・児童委員の選任」でした。仕事内容の重さや個人情報保護の扱

助)や「互近助」という言葉もあるように、近隣での防災への取り組みとして自治会は重要な存在だといえるでしょう。
 また、広報配布業務など、行政などからの配布物が各世帯に行き渡らなくなるということも考えられます。行政情報を市民にお知らせすることは市の重要な責務です。現時点では、自治会を通じて配布することが、大竹市では効率のよい方法だと思われま

【表1】自治会が活動停止または解散した場合の住民への支障の可能性(一部)

防災	災害時に地域での共助に支障が出る。
広報	行政などからの広報物などが配布できなくなり、情報が得られにくくなる。
	広報物の配布が無くなると、班内でのコミュニケーションや、安否確認が難しくなる。
集会所	管理する人がいなくなり、利用に支障が出る。
税	個人所有地を無償で自治会活動に利用する場合の固定資産税の減免措置が受けられなくなる。
ごみ	ごみステーションの管理をする人がいなくなる。
その他	地域で課題が発生したとき、即時に協力・連携体制を確保することが困難になる。



(左)夏の地区清掃(玖波7丁目)(右)カラスに荒らされたごみステーション。

自治会にはこんな楽しみも。

ラージボール卓球大会(6月16日)
 グラウンドゴルフ大会(7月26日)
 [玖波地区] 自治会対抗



いなど、大きな責任を感じて、なかなか地域内で引き受けてくれる人がいないという声もあるようです。
 続いては「道路・水路の草刈り、清掃活動」「市広報等配布業務」「各種募金の集金」などが上位にのぼっています。高齢化などによる肉体的な負担や、お金を扱うことへの責任など、さまざまな理由が相

まっていると感じられる結果です。これらの業務を負担であると感じる自治会がある一方で、現状でもやっているという自治会もあるようです。
 アンケート結果は、自治会からの切実な声として受け止め、市の各部署で情報を共有し、市自治会連合会と共に改善に努めていきたいと考えています。



言えば愚痴になるのですが、正直な話大変です。立戸地区は山の斜面に住んでいる方も

若い人の力が必要

9月22日に行われた市内一斉清掃の『おおたけクリーンキャンペーン』。立戸1丁目自治会長の新出康人さんに、当日の様子や自治会活動の悩みを聞いてみました。

「自治会に入らなくても困らない」「役員やるなら退会する」
—自治会長の悩み—

立戸1丁目自治会

多く、そこからの水路もある。水路脇に茂っている草を刈っていくだけでも相当な量になります。確かポリ袋で180袋、水路にたまっている泥を



自治会活動には感動が必要です。

—市自治会連合会会長 古川 和男さんに聞く—

広報配布は安否確認

自治会アンケートを実施しましたが、まだ道半ば。もう少し深く、自治会長の本音を尋ねたいと思っています。まずは今皆さんが頭を悩ませている中で活動助成金や広報配布について質問したのですが、アンケートでは、配布担当者の不足や高齢化などで配

ること自体が難しいのでやめたいという回答がある一方で、配布を外部に委託するくらいなら、自治会でやるので手数料を上げて欲しいという声もありました。私は広報配布をやめることで、自治会離れが進むのではないかと心配しています。配布や回覧をすることは、近隣の方の安否確認の役割もあると思うのです。や

めてしまうとコミュニケーションがますます希薄になるのではないのでしょうか。

班長にしても役員として回ってきたら、自分も励みになるし、みんなと顔を合わせることが自治会づくりにつながる。もうやらなくていいよと言うなら自治会は退化していくと思います。

ほかにも、民生委員・児童委員などの人選に苦慮しているようです。

自治会が無くなったら

先日家に「自治会に入りたい」と、若い人が加入申込書を持って来られたので驚きました。それは市が作ったチラシで、自治会活動のことが書かれており、転入、転居の手続きの際に窓口で渡しているものでした。それを見て入ろうと思ったようです。

若い世代の人がなぜ自治会を離れていくかというと、「人づき合いが面倒」「役を持たされるのが嫌だ」です。自治会活動に参加してもらうには、感動とか感銘が必要なのだと思います。いろいろな行事でも、我々高齢者が手本を見せて、励まして感動を与

転入手続きなどのとき、窓口で渡している自治会加入申し込みのチラシ。



えることができればと。清掃作業でも単に「ご苦労さん」だけでは、こんなものかと思ってしまう。次も頑張ろうと思えるような感動が必要ですよ。

自治会が無くなってしまつたら、災害時にも対応できなくなってしまう。能登の震災でも一番大事なのは絆だと言っていました。これに尽きると思います。向こう三軒両隣という言葉を大切にしてい、お互いが気づき合い、助け合いながら、それを膨らましていければ、より良い自治会づくりができるのではないのでしょうか。

自治会をどうしていくか、1年や2年では答えは出ませんが、アンケートから踏み込んで、自治会長さんらの苦しみ、要望を聞きながら取り組んでいこうと思います。

私が自治会に入っていないのは。

—未加入の单身者に聞く—

アパートに引っ越して来たとき、自治会長が訪ねて来られたのですが、独身だったので「入らなくてもいいよ」と言われました。それでずっとそのままです。アパート住まいだと近所の人のことが分かりにくいので、今となっては自治会の中に入って行きにくい面もあります。それにアパートだと会社が借りているところもあるし、人の入れ替わりも激しかったりするので、あえて勧誘しないこともあるでしょうね。一戸建てだと隣の人の顔も見えやすいので、自治会にも入りやすいかもしれません。それに、自治会の人が高齢な方が多いので、若い人はなじみにくいのもかもしれません。子どもがいると地域でのつながりができてくるでしょうが、単身者はそこが難しい。

自治会をやめるとも。自分が自治会長になった4年前は147世帯あったのが、今は20世帯も減っています。3、4世帯の班は別の班と一緒にしたりもしています。高齢で回覧板が回せないの、自治会を退会させて欲しいと言われます。回覧できないところはポステイングしているところもあるようです。本当は高齢になるほど、人とのつながりが必要だと思うので、入っていて欲しいのです。災害時に誰が住んでいるの

か、近所の人に分らないと困ると思います。「共助」と言われるように、自治会に入るといのは、みんなが助け合うということじゃないでしょうか。清掃活動にしても、そういう機会にみんなが集まってワイワイやる場になればいいんじゃないかと。それで近所の人と顔を合わせて、あいさつでも交わすようになれば、また違ってくる。まずは一緒にやるということが大切だと思います。

高い加入率。—自治会担当者に聞く—

新潟県燕市総務課 課長補佐 高宮 潤さん

—新潟県では自治会加入率が100%近い水準と聞いていますが、燕市ではどうでしょう—

アンケートでは、95~96%くらいの加入率でした。

—高い理由は何かあるのでしょうか—

特に意識したことはありませんが、入るのが当たり前みたいな雰囲気だと思います。

—転入されて来る方も入られているのですか—

転入手続きの窓口で、自治会長さんの連絡先を伝えており、連絡して加入されているようです。ただ、ごく最近になって、入らないといけなにかとかいう声も出始めたようです。

—市から自治会への業務の依頼で、何か言われることがありますか—

配りものが多いとか、募金集めの対応が難しいという声も聞いています。

話をするだけでもいい。そこで出会って人と人がふれあう場で、やりがい、生きがいにつながることを期待できると考えました。ただ、その道のりは容易で



11月16日『こぶしの里松ケ原』3周年イベントでは、野菜の売り出しを待つ来場者の行列が。(詳しくは1月号に掲載します)

「来る人も別に買い物をしなくてもいい。そこで出会って話をするだけでもいい。人と人がふれあう場で、やりがい、生きがいにつながることを期待できると考えました。ただ、その道のりは容易で

はありませんでした。場所の選定も簡単には決まらず、7割近い人が賛成してくれた一方、実現するのは時期尚早という声もあつたと平野さんは振り返ります。しかし、ただでさえ高齢化が進む中「今やらなければ！今を逃したらで



イベント開催前には、みんなでウォーキング。

「誰でもいつでも行ける」ところ」「もう一度、何度でも行きたくなる」ところ」「楽しみがある」ところ」という3本の柱をコンセプトに掲げるように、松ケ原の住民の居場所として、また市内外からの来場者を受け入れる場として機能しているようです。そこには、地図上、行政上の境界はあっても、住民の日々の営みには境界はないと感じました。

「ある一部の有志だけが頑張っただけだったら、その人たちがいなくなったら終わる。あの人は好きでやりよるんよ」と、他人事になつてしまふ。そうならないように、自治会の臨時総会を何度も開いたりして、地道に住民の理解を得るように努めた中本さんと平野さんです。

小さな道の駅構想

数年前に住民に困りごとアンケートを実施しました。そこからは「介護」「通院」「買い物」「食事」「緊急時の対応」「話し相手」などへの不安が浮き彫りとなりました。アンケートを元に、これからの松ケ原をどうしていくかと5人の女性たちが「あれをしたら」「これができたら」と意見を出し合ったといひます。

「ある一部の有志だけが頑張っただけだったら、その人たちがいなくなったら終わる。あの人は好きでやりよるんよ」と、他人事になつてしまふ。そうならないように、自治会の臨時総会を何度も開いたりして、地道に住民の理解を得るように努めた中本さんと平野さんです。

『こぶしの里松ケ原』誕生

そのかいあつて、令和3年11月27日、記念すべき第一歩を踏み出すことができ、今年3周年記念イベントも開催されました。

「こぶしの里松ケ原」も住民の応募で選ばれて名づけられた愛着のあるもの。レジを打ったりする店番の女性ボランティアの数も増え、皆が集う楽しみの場ともなつており、男性たちは集荷などの作業を担い、ひと息ついた後は、他愛のない話をしています。

回している間に鮮度が落ちてしまうこともあるのが弱点。そう思った自治会員の一人から提案されたのがLINEを使った情報発信でした。「回覧だと隣家に回してしまつたため、内容が記憶に残りにくい。その点LINEは、過去の情報もさかのぼって見ることができるといふのが利点です」と強調します。



「今は情報発信の管理は、LINEを提案した自治会員一人にお願いしていますが、今後は自治会にLINEでの情報発信の部署を設けようと考えています。そうでないと継続性が保てなくなる。そう考えている嘉屋さんです。」

情報は取捨選択

しかし、無料アカウントは、

「昨年の断水のときに、高齢者に水を届けなければと思つたように、みんなが困つたときに心配してくれたり、助け合つたりする。自治会は何かが起きたときに、そういうコミュニケーションのために必要なのだと思います」。自治会の存在が問われている今、嘉屋さんは、その力を込めました。



地図の上には境界はあるが、日々の暮らしに境界はない。—こぶしの里に咲く自治会活動— 松ケ原自治会

松ケ原集会所で毎週土曜日の朝10時から催される『こぶしの里松ケ原』。新鮮な野菜や果物、食品加工品、手づくりの雑貨などを求める人でにぎわっていました。この直売所を立ち上げた自治会の思いと情熱を紹介します。

2つの市の住民が暮らす地区

JR玖波駅から県道大竹湯来線を車で約10分。標高約200mに位置する静かな里、そこが松ケ原地区です。行政区分では大竹市の飛び地となつており、周囲は廿日市市。しかし、その境界は見た目では分かりません。ここは、大竹市と廿日市市の住民が共存する珍しい地区。大竹市側は140世帯、廿日市市側は34世帯の人が暮らしています。

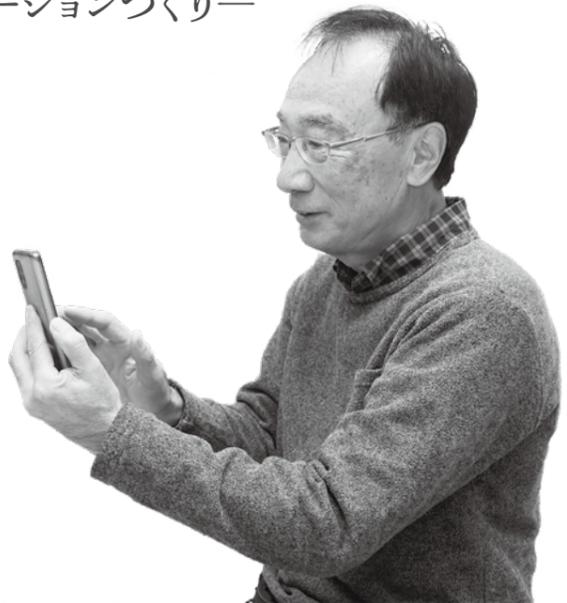
松ケ原自治会は、両方の地区の住民が加入しており、共に活動をしています。以前は松ケ原町自治会と称していましたが、大竹市の住所名である「町」の文字を取るよう規約を改正。廿日市市大野第11区の住民との一体感を持つようにとの思いからだそうです。現在の自治会長は中本春一さん、副会長には11区の区長を務める平野早百合さんが就いています。

山里である松ケ原地区は、ご多分に漏れず高齢化と人口減少の集落となっています。このままでは、衰退していくという危機感を持った自治会と地区社会福祉協議会では、

情報発信にLINE活用。

—回覧板と併用でコミュニケーションづくり—

新町1丁目自治会



自治会にLINE普及

世帯数約400、そのうち自治会に加入しているのが、およそ300世帯弱という新町1丁目自治会。地区内にはアパート住まいの単身者も多く、入れ替わりなどもあることも未加入世帯がある要因ではないかと嘉屋さんは考えているようです。

自治会は、住民に情報を届ける役割も担っています。その意味で新町1丁目では、未加入世帯にも市の広報紙や市議会だより、そのほかの回覧なども配布しています。しかし、回覧板で伝える情報は、班によっては世帯数が多く、

配信できる限度数200通までと多くありません。登録者数が増えてきた今年度から自治会は配信できる数が多い有料アカウントに切り替えました。だからと言って、何でもかんでも発信するのはなく、新町の住民にとって有益と思われる情報を取捨選択するよう心がけているそうです。

納涼祭で団結力発揮。

玖波8丁目自治会

猛暑が続いた今年の夏。玖波8丁目の公園では、毎年恒例の納涼祭の準備をする人たちの姿がありました。男性は、テントを張ったり、やぐらを組んだりして汗を流します。女性は集会所で、屋台で振る舞う焼きそばやカレーの下ごしらえに余念がありません。

「皆さんに無理を言っても手伝わってもらってはいませんが、若いころからやっている行事なので、なじみもあるのだと思います。それに、納涼祭を楽しみにして、団地を離れた子どもが孫を連れて帰ってきてくれます」と笑みがこぼれる高木さんです。

秋の祭りには、こどももこしも団地内を練り歩き、冬には、防災の炊き出し訓練も兼ねた餅つき大会も開催しています。

夕刻、公園は地元住民や帰省した子や孫、それにほかの地区からの来場者で、にぎわい始めます。射的やボールすくい、ビンゴゲームで楽しむ子どもたち。「大竹音頭」の曲がかかると、やぐらの周りは踊りの輪ができました。最後は抽選会も行われ大盛況。

「新しい団地だったので、皆さんいろいろなところから移り住んで来ており、同じような立場でした。それで団結力があるのかもしれない。新たに引越して来られた方も自治会に入ってくれています。役員は苦労もあるけれど、皆の喜ぶ姿も見られる。そんな表情の高木さんでした。

納涼祭は玖波8丁目の団地ができて間もないころから始まり、台風やコロナで中止したの目を数えると自治会長の高木秀生さんはいいます。

「皆さんに無理を言っても手伝わってもらってはいませんが、若いころからやっている行事なので、なじみもあるのだと思います。それに、納涼祭を楽しみにして、団地を離れた子どもが孫を連れて帰ってきてくれます」と笑みがこぼれる高木さんです。

「自治会に入って何のメリットがあるのか」。加入勧誘に何と耳にする言葉だといいます。確かにメリットは見えにくく、デメリットは感じやすいことかもしれません。しかし、地域コミュニティとは、メリット、デメリットで判断するものなのでしょうか。これは人それぞれの考え方があり、強制するものではありません。ただ、見えにくい自治会のメリットの「見える化」に努めていくことも、地域の人々の理解や協力を得ていくためには、重要となってくるといえます。職場や学校、趣味の仲間などを越えて、同じ地域の幅広い世代の人を包括し交流する団体というのは、今は自治会しかありません。自治会は誰のものでもなく、そこに住まう自分たちのものであることを思い、持続可能な自治会をめざして、もう一度考えるきっかけになればと思います。(自治会連合会、自治会についての問い合わせは、自治振興課 ☎ 59-2142)



ページ数の増えた今月号。広報紙の仕分け、配布の皆さん、大変ですがよろしくお願いいたします。